

名古屋東照宮 東照宮祭く名古屋まつりのルーツ

◎むかし、“名古屋祭り”は、4月に行われていました。

○明治から戦前にかけて、名古屋東照

宮の東照宮祭を名古屋祭りと呼ん

でたのです。

○東照宮祭は、徳川家康公の命日

(元和二年四月十七日)が祭礼日です。

◎お祭りを始めたのは、徳川義直公

○敬公実録という記録に、今年四月一六・一八年元和四年二月、

御三回忌御法事執行、このときより御祭礼を始め候旨申し候」とあ

り

初代尾張徳川家の徳川義直公敬公が、父家康公、東照大権現の三回

忌法事、時からお祭りを始めるように。と言っています。

このことから、尾張徳川家公認お祭りを始めることとなりました。



翌年一六二九年元和五、名古屋城三之丸に尾張徳川家の東照宮が完成しました。

◎お祭りは、名古屋城下町最大の行事

○新修名古屋市史第三巻では、「名古屋東照宮の祭礼は、近世名古屋

城下町における最大の行事であった。そのため町民だけではなく、武士

殿様までが祭り見物を楽しみにしていたのである」と紹介しています。

○お祭りの日は町民も町内から出す練り物に従い、御城の束入ること

が許されていきました。また、お祭行列が通過する本町通りには、

見物用の竹矢来という囲が設けられ、通り沿には、見物席を設け

弁当を出すなどして、お客をもてなす商店や町屋があたり、茶店を出す



などの 商売も 行われていたそうです。

◎お祭りの呼び物は、名古屋城下の

みんなが参加した祭礼行列

○お祭り行列には、武士 神官 僧侶

町民など名古屋城下のいろいろな人々が

参加していました。行列は、三基のお神輿

を中心に警固のムコスプレーヤシ、山車な

どが三之丸から御旅所までのパレードを

行っていました。お祭りに山車が登場した

のは、東照宮が建てられた一六一九年元和

五、名物山車 橋弁慶車 が登場し、そ

の後山車は九輛になり、すべてからくり

人形が載せられ、お祭りの目玉となりました。



◎元治二年一八六五の家康公没式百五十拾年祭では総勢六千八百人を超える壮大な規模で全国一の祭礼ともわれました。

◎引き継がれたなごやまつり

尾張徳川家の支えで続いたお祭りは、明治となても、城下町の人々

によって祭りは続けられました。その頃の東照宮祭を、名古屋祭とよん

びました。

しかし、昭和の戦災によって祭りは途絶えてしまいます。東照宮は国宝で

も、あまた本殿を始め全ての建物が焼失。お祭り行列パレードを盛り上

げるお神輿も山車九輛も、基盤割まちと共に全て焼失してしま

い。お祭り行列を行うことができなくなりました。

一九五四年十月昭和二十九、名古屋市と商工業の関係者による、名古屋

商工祭が行われます。祭りに合わせて、文化財指定の山車祭として市内

に残っていた八輛の山車が参加。華やかなお祭り行列が復活しました。

翌年一九五五年からは、商工祭と芸術祭、教育祭と合わせ名称も、名

古屋あひとなり、今に至ります。

いま
今の名古屋まじりは昔の名古屋祭り東照宮祭から名前を引き継いでいるようです。

名古屋東照宮

さいしん とくがわいやすこう
祭神：徳川家康公

げんな
一六一九年 元和五 九月一七日に名古屋城郭内三之丸今の
なごやじょうせいもんみなみあた
名古屋城正門南辺りに創建されました。

ちんだい
一八七五年 明治八 名古屋鎮台 旧日本陸軍がおかれ現在の
ばしよ ひ こし
場所引越となりました。

よしなおいらい ほんでん
一九三五年 昭和一〇 五月一三日には 義直以来の本殿をはじめ
しゅようけんぞうぶつ こくほう
主要建造物が国宝 旧国宝保存法に指定される。

せんさい
一九四五年 昭和二〇 戦災によって本殿など全焼

けんちゅうじ よしなお せいしつこうげん
一九五四年 昭和二九 建中寺より義直の正室高原院の
おたまや いちく ほんでん
御霊屋を移築して本殿としました。本殿は、愛知県指定

ゆうけいぶんかざい なごやしとしけいかんじゅうようけんちくぶつ
有形文化財 名古屋市都市景観重要建築物に指定され

てい
ます。



名古屋東照宮の本殿前

住所	中区丸の内二丁目3番 37 号
御祭神	徳川家康公 例祭日 4 月 17 日
創建	1619年(元和 5 年 9 月 17 日)
創建者	初代尾張徳川家徳川義直公